

問 二期目の方針と基本姿勢は

答 職員削減は現在より一歩踏みこむ



Q 井関定住団地開発計画の進捗状況は。
町長 現在のLHP組織の理解・周知不足で、組織の再編も考えられる。3カ月前と経済状況も大きく変化している。多方面の角度から慎重に進めなければ、一大事となると認識している。冷静な判断が必要である。

Q 厳しい財政状況からの、三次市の市長退職金廃止条例案提出の記事に対しての考えは。
町長 三次市長は、激戦選挙時の公約と聞く、私は公約にしていないので、その考えはない。

Q 規模に対し多すぎる職員数の削減計画は。
町長 職員削減は財政健全化の大きな柱である。現在、職員定員適性化計画は達成できている。しかし、理想としては人口1000人に対し、職員一人でないこと、財政健全化はない。勧奨退職、分権も考えながら、現在の適性化計画以上に踏み込んだ、削減を考える。

Q 自主財源確保の、企業誘致の目鼻と政策は。
町長 現在の激しい経済状況では、不可能に近い。企業から荒廃農地などへの問合せもあり、希望もあるが、世界同時不況と激動社会の中、大企業の計画凍結と円高を合せると困難と考える。

Q 定期的な見直しは。
総務課長 指定管理期間は1年としている。その時点で見直すが、毎月の自治振興会との会議で問題点を把握する。減免措置は、基本的に考え方を統一している。

Q アンケートのなかで、「わからない」の意見をどう扱うのか。
企画課長 中身をよく理解されていない方を含めどうするか検討するが、最終的には町長の政治判断となる。

Q 農業公社には零細農家対策の役割もあり、赤字は避けられないのでは。
産業課長 新たな収益性の部門を求めることも必要であり、具体的な成果を目指して行きたい。

Q 現在の進捗状況でアナログ放送中止(平成23年7月)までに間に合うのか。
町長 ぎりぎりの段階である。

Q 集会施設などの管理を地元自治振興会に指定するメリットは。
町長 ○維持管理費の節減。○施設利用の不公平感の解消。○地元利用率の向上。○地元の利用料収入の確保などがある。

Q 高速情報通信整備アンケート調査結果をどう生かすのか。
町長 結果をみて判断するが、政治判断となる。

Q 農業公社への補助金はどういった性格のものか。
副町長 アンケート調査結果は、あくまで判断材料だと理解して欲しい。

Q 農業公社に公的資金を無制限に注入するに財政的に無理がある。公社の自助努力のため、また地域の要望にはある程度応えたい。
町長 農業公社には零細農家対策の役割もあり、赤字は避けられないのでは。

Q 新たな収益性の部門を求めることも必要であり、具体的な成果を目指して行きたい。
産業課長 新たな収益性の部門を求めることも必要であり、具体的な成果を目指して行きたい。

Q 営業には1社来ている。その他3社から、情報提供を受けている。
企画課長 営業には1社来ている。その他3社から、情報提供を受けている。



子ども放課後教室ケーキ作り

問 「集会施設」指定管理のメリットは 答 管理費の節減や利用料収入の確保など



Q アンケートのなかで、「わからない」の意見をどう扱うのか。
企画課長 中身をよく理解されていない方を含めどうするか検討するが、最終的には町長の政治判断となる。

Q 農業公社に公的資金を無制限に注入するに財政的に無理がある。公社の自助努力のため、また地域の要望にはある程度応えたい。
町長 農業公社には零細農家対策の役割もあり、赤字は避けられないのでは。

Q 集会施設などの管理を地元自治振興会に指定するメリットは。
町長 ○維持管理費の節減。○施設利用の不公平感の解消。○地元利用率の向上。○地元の利用料収入の確保などがある。

Q 定期的な見直しは。
総務課長 指定管理期間は1年としている。その時点で見直すが、毎月の自治振興会との会議で問題点を把握する。減免措置は、基本的に考え方を統一している。

Q 高速情報通信整備アンケート調査結果をどう生かすのか。
町長 結果をみて判断するが、政治判断となる。

Q 農業公社への補助金はどういった性格のものか。
副町長 アンケート調査結果は、あくまで判断材料だと理解して欲しい。

Q 農業公社には零細農家対策の役割もあり、赤字は避けられないのでは。
産業課長 新たな収益性の部門を求めることも必要であり、具体的な成果を目指して行きたい。

問 和牛の里へ事務所の設置は 答 今後の検討材料だ



Q 保健課長
認知症介護施設は「よなみの里」「安田いこいの家」の施設がある。現在、町内に認知症対応型デイサービスは無い。小規模対応型運営委員会を経て県に申請している。

Q 公共交通協議会に油木高校からの委員を。
町長 異論は無い。



飼料稲ロール

Q 繁殖基地再構築の組織で、和牛改良組合の強化に成るのか。
町長 21年度に60頭規模の牛舎を計画している。

Q 産業課長
必要ならば、今後検討する。

Q 認知症対応型「デイサービスセンター」の開所に補正予算化された。財源内訳に変化があったのか。
町長 今回、国庫補助と成った。当初の起債は調整する。

Q 保健課長
認知症介護施設は「よなみの里」「安田いこいの家」の施設がある。現在、町内に認知症対応型デイサービスは無い。小規模対応型運営委員会を経て県に申請している。

Q 公共交通協議会に油木高校からの委員を。
町長 異論は無い。

Q 和牛改良組合の事務局を配置すべきでは。
町長 21年度に60頭規模の牛舎を計画している。

Q 産業課長
必要ならば、今後検討する。

Q 認知症対応型「デイサービスセンター」の開所に補正予算化された。財源内訳に変化があったのか。
町長 今回、国庫補助と成った。当初の起債は調整する。

Q 保健課長
認知症介護施設は「よなみの里」「安田いこいの家」の施設がある。現在、町内に認知症対応型デイサービスは無い。小規模対応型運営委員会を経て県に申請している。

Q 公共交通協議会に油木高校からの委員を。
町長 異論は無い。



農道矢壁線

問 今後の道路行政は 答 まだまだ必要・整備に取り組む



Q 民間が不景気な時は官(公共工事、道路行政)が支える考え方は、私も賛成だ。道路建設などはマスコミから批判され易いので地方からの要望が大切と思う。
町長 民間が不景気な時は官(公共工事、道路行政)が支える考え方は、私も賛成だ。道路建設などはマスコミから批判され易いので地方からの要望が大切と思う。

Q 現在の進捗状況でアナログ放送中止(平成23年7月)までに間に合うのか。
町長 ぎりぎりの段階である。

Q 新規の道路建設への考え方は。
町長 新たな道路建設は必要と思う。R182・周回道路など整備に取り組む。

Q 支障木の除去など、地域で取り組めない時は委託事業で行う。
町長 本年度も18路線、4,400mを143万円で実施している。

Q 一般競争入札が時代の流れであるが町内業者の育成強化へ向けて努力する。
町長 一般競争入札が時代の流れであるが町内業者の育成強化へ向けて努力する。

Q 情報通信基盤整備(ケーブルテレビ)のアンケートの結果がどの程度の賛成で本格的に取り組むのか。
町長 50%割れなら出来ない。

Q 受皿となる業者は？
企画課長 営業には1社来ている。その他3社から、情報提供を受けている。